市民と議会の意見交換会

報告書

令和元年５月 11 日（土）開催

Ⅰ　市民と議会の意見交換会の概要　……　1

Ⅱ　テーマごとの質疑・意見【要旨】　……　2

Ⅲ　参加者アンケートの結果　……　23

長 野 市 議 会

Ⅰ　市民と議会の意見交換会の概要

1　主　催　　長野市議会（意見交換会実行委員会）

2　日　時　　令和元年５月11日（土）午前10時～正午

3　場　所　　長野市役所第二庁舎10階　講堂、会議室201、202、203

4　内　容

(1) 開会挨拶
　　山本　晴信　実行委員会副委員長
(2) 議長挨拶
　　小林　治晴　議長
(3) 意見交換テーマ紹介・進行説明
　　宮崎　治夫　実行委員会委員長
(4) 各テーマ別意見交換
　　（テーマごと各会場へ移動）

・「次の世代に先送りさせないための
　　公共施設マネジメントについて」・・・・・・・・会議室202
　　【公共施設の在り方調査研究特別委員会】
・「少子化の時代にあった小・中学校とは
　　（学力・部活・通学区域・学校統廃合）」・・・会議室203
　　【小・中学校の在り方調査研究特別委員会】
・「中心市街地活性化と公共交通について」・・・・・・・講　堂
　　【まちづくり対策特別委員会】
・「農林業の担い手の確保について」・・・・・・・・・・・会議室201
　　【農林業振興対策特別委員会】

5　参加者　　57人の市民等の皆様に御参加いただきました。
　　手話通訳及び託児所の御利用はありませんでした。

一昨年から従来の議会報告会の開催形式を見直し、特別委員会ごとにテーマを決めて意見交換会形式とし、今年度は３回目となります。参加者からの御意見をお聴きし、市政に反映させていくことに重きをおいた運営としています。

各テーマ別会場の運営については、特別委員会の話合いにより、司会、記録など役割分担を決めました。

Ⅱ　テーマごとの質疑・意見【要旨】

意見交換会で出された質疑・意見、それに対する今後の対応について報告します。質疑・意見は要約してあります。

次の世代に先送りさせないための公共施設マネジメントについて【公共施設の在り方調査研究 特別委員会】

参 加 者：６人　　【◎委員長　〇副委員長】
出席議員：◎三井　経光、〇鈴木　洋一、田中　清隆、竹内　茂
小泉　一真、阿部　孝二、松田　光平、若林　祥、つげ　圭二

参加者①【飯山市】
・公共施設の在り方は、飯山市でも非常に厄介な問題である。
・長野市ではどのような意見があるのか聞いてみたいと思い参加した。

参加者②【山ノ内町】
・山ノ内町も公共施設マネジメントを進めていかなければいけない状況。他の自治体の考え方も聞いてみたいと思い参加した。

参加者③【横浜市】
・実家へ帰省中に新聞で今回の催しを知った。横浜市では、議員と直接、意見交換する機会がない。人口減少の中、公共施設を削減しなければ本当にやっていけないのか、意見を聞いてみたいと思い参加した。

参加者④【川中島地区】
・少子高齢化で中山間地域での空き家の増加が問題となっている。また、市営住宅もかなり空いてきている。有効活用を考えるべき。
・使わないところはなくしていくという方針も必要ではないか。市としての方針がどのように進んでいくのか、広い視野で見ていきたい。

参加者⑤【須坂市】
・大学で公共施設について学んでおり、勉強したいと思い参加した。

参加者⑥【若槻地区】
・大学で公共施設の在り方について勉強している。公共施設はアクアウイングを多く利用している。老朽化が進むことで使えなくなるとすれば、考えていかなければいけないと思う。

参加者②【山ノ内町】
・公共施設の利用状況は、都市部と周辺部で大きな差がある。それぞれ必要な施設ではあるが人口減少で利用率が下がってくると、どうするか選択せざるを得ない。長野市は20％縮減の目標を決めているが施設の選択をどう考えているのか。

つげ　圭二 議員
・長野市では、公共施設の在り方について、全32地区でワークショップを行い、様々な意見を聴きながら合意形成を図っていくこととしている。

松田　光平 議員
・篠ノ井地区では、２年程前にワークショップを開催した。いろいろな公共施設を統廃合するためにどうしたらいいか、適正配置はどうするかといった検討を行った。

小泉　一真 議員
・鬼無里地区のワークショップに参加した。公共施設を20年間で20％縮減するということをネガティブに捉えているのではなく、今後どのように鬼無里をつくっていくのかといった姿勢の住民が多かったように感じた。

参加者②【山ノ内町】
・地区ごとのワークショップの際、資料説明はどのように行っているのか。今日の資料にあるような数字は、市民には非常に難しい内容だと思う。
・地区ごとに需要がどれほどあるか把握し、将来コストがどれほどなのか、住民に説明し、理解してもらった上で20％の縮減をしなければいけない。

つげ　圭二 議員
・20％の縮減は各地区へ割り当てるというものではない。ワークショップでは、地区の公共施設の実情を説明した上で、将来、使い勝手を良くしていくにはどうしていったら良いのかという観点で進めている。

小泉　一真 議員

・長野市は、公共施設マネジメント指針を策定し、市民に、今後40年間で、維持補修に5,858億円が必要だと示している。ワークショップでは、地域ごとに地域内の施設を具体的な名称、面積、利用率、耐用年数といった資料を示し、どのような統廃合、今後の地域の施設の在り方があるか、といった投げ掛けをしている。

松田　光平 議員

・篠ノ井地区でワークショップを行った時には、今回の資料にある数字は示されていなかった。施設の維持等についての意見はこれからだと思う。

阿部　孝二 議員

・人口が減ってきている中では、これまでと同じような考えで、これからの施設の維持を考えていくことは難しくなってきている。

若林　祥 議員

・芋井地区のワークショップに出席した。市では、建物を複合化することによって共用部分の面積を減らすことができるといった具体的な説明もしている。分かりやすい説明をし、市民の理解を得ていくことは必要。

参加者⑥【若槻地区】

・市民の中には子供も含まれる。若い人の理解を進めるためには、説明する年齢の基準をもっと下げる必要がある。

参加者⑤【須坂市】

・例えば図書館についても、学校の図書館を利用するので、他の公共施設を使う機会が少なく、興味を持てない。自分で体験してみないと、施設の大切さ等は分からないのではないか。

参加者④【川中島地区】

・経費負担等を地区にしっかり把握していただき、施設をどうしていったら良いのかということを、地区へ投げ掛けていくことも一つの方法。
・住民にも公共施設に対する意識を高めていただく必要があると思う。

参加者③【横浜市】

・様々な資料で市民に説明を行い、意見を聴いて対応していくことは良いことだと思う。

田中　清隆 議員

・将来の費用負担などの数字については、もっと分かりやすく説明をしていかなければいけない。

小泉　一真 議員

・市も、学生さんが作ってくれたマンガのキャラクターを使いながら公共施設マネジメントを分かりやすく説明するといった努力はしている。
・学校、市民プール、道路、水道等、人が必ず利用するのが公共施設。意識されていないかもしれないが、実は使っている。そういった意識も持っていただきたいと思う。

竹内　茂 議員

・今までは長寿命化という観点が欠けていたように感じる。全体にかかるコストをどうやって抑えるかが大切。

参加者①【飯山市】

・公共施設をなくせば、施設がある便利なところへ人が移動するという悪循環に陥り、人口流出が加速するのではないかと心配になる。

参加者③【横浜市】

・選挙権の年齢が引き下げられたが、若者の投票率は悪くない。若い人たちに関心がないと決め付けるのではなく、もっと積極的に意見を聴くべき。

参加者④【川中島地区】

・公共施設についてのテーマは大変難しいというのが率直な意見。
・施設の要不要については地域住民の意見を聴いて進めることが必要。
・できるだけ若い人に理解していただくため、市は、もっと地域に足を運んでいただきたい。

参加者⑤【須坂市】

・公共施設をテーマに学んでおり、今回初めて参加した。公共施設は市民のために造った施設なので市民がもっと考えなければいけないと感じた。

参加者⑥【若槻地区】

・行政側もこういった問題について、ここまでは知っておいて欲しいというところを、学校などにもアピールしておいてもらえると良かったなと思う。基礎知識があると、もっと理解が進む。

参加者③【横浜市】

・長野市には、エムウェーブ、ホワイトリンクなどの大きなオリンピック施設がある。これらが大きな財政負担になっているのではないか。

小泉　一真 議員

・オリンピック施設は長野市の一つの特性であり、他の自治体にはない負担はある。オリンピック施設をどう活用していくのかは今後の課題である。

三井　経光 委員長

・様々な意見があり、一つの方向にまとめることはできないが、本日出された意見を今後に生かしていきたい。

【特別委員会の今後の対応】

本テーマへは６人の方に御参加いただきました。少人数での意見交換となりましたが、本市へ通学する大学生など市外・県外に居住されている方にも御参加いただき、広い視点から様々な御意見を頂きました。

市民参加者からは、「公共施設の適正配置や統廃合等については、地域住民と十分な意見交換を行い、理解を得ながら進める必要がある。」、「市民にとって、行政から示される資料や説明は理解しにくい。」といった意見が出されました。また、若い世代の参加者からは、「若年層が能動的に公共施設について学び、考える機会が少ない。」といった意見も出されました。

今後、公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画（小学校や公民館などの施設区分ごとに、計画期間中の維持管理・更新等の内容を定める計画）の策定に当たっては、市民の皆さんの理解と協力が必要になってきます。今回頂いた意見を踏まえ、本委員会といたしましては、様々な機会を通じた市民への説明や意見聴取の場の更なる充実とともに、市民に理解いただけるような、分かりやすい説明に努めていただくよう理事者に要望してまいります。

なお、本テーマへの参加者が少数であったことを踏まえ、議会としましても、テーマ設定を具体的な施設区分に絞り込むなど、市民が参加しやすく、率直な意見を聴くことができるよう工夫していく必要があります。

少子化の時代にあった小・中学校とは
（学力・部活・通学区域・学校統廃合）
【小・中学校の在り方調査研究 特別委員会】

参 加 者：15人　　【◎委員長　〇副委員長】
出席議員：◎岡田　荘史、〇西沢　利一、松木　茂盛、黒沢　清一
近藤　満里、山本　晴信、西村　裕子、宮崎　治夫

少子化により児童・生徒数の減少が進む中で、活力ある学校づくり検討委員会で審議した意見のまとめと、市立小・中学校の児童生徒・学級数の推計値を資料にした意見交換となりました。

参加者①【稲里地区】
・学校の通学区と行政区を一緒にできたらいいと思う。
・子供たちにはふるさと観を習得してほしい。
・配布の資料に、「18歳までに育てたい具体的な姿や能力・態度」とある。これには高校と小・中学校の関係を深めることが必要だと思う。

参加者②【地区不明】
・高校でも中学校との連携の在り方を模索している状況。今は、中学教諭と高校教諭の行き来による教え合いや課題探求などを実施しているが、高校入試の改編もあり、幼保・小・中・高の関わりが必要。

参加者③【柳原地区】
・部活動の制限には賛成。また宿題を減らし、家庭で話し合う時間が大切と考える。こうした様々な問題に先進的な取組を期待する。

参加者④【豊野地区】
・ＷＴＯが提唱する学校規模は小学校で100人以下。
・学力テストで問われる学力とは何か。競争で追い立てていく現状は問題なのではないか。
・発達障害の子供が10年の間に増えている。今、求められる学校の在り方が変わっていると考える。

参加者⑤【安曇野市】

・発達障害が多いと感じており、対応を早急に行うべき。
・これからコミュニケーション能力が必要になるので、いろいろな人と関わり、地域と関わる学びを進めてほしい。

参加者⑥【浅川地区】

・ＡＩ時代になり、子供たちが何を目指して学ぶのか変わってきていると感じ、迷いながらの子育て中である。学校は何を身につける場所になるのか考える必要がある。
・習熟度は人それぞれであり、学力だけでなく、多様な育ちと、育ちを測る物差しも多様であっていいと思う。

参加者⑦【篠ノ井地区】

・コミュニケーション能力を高めるには学力が必要で、基礎学力こそが大切。昨今、教える側の学力の問題もあると思う。
・財政を重視しすぎて学校の統廃合を進めるのは慎重にするべき。一方で、中学校の場合は、生徒数が少なすぎると子供たちの世界が広がらないのではないか。

参加者⑧【青木島地区】

・ＤＶ、児童虐待が頻発している。発達障害の問題もある。家庭内の状況が子供のコミュニケーション能力の育成にも資すると思うので、家庭内での子供への対応が重要。
・少子化について、経済的な問題で子育てがネックになっている現状もあると思う。

参加者⑨【古牧地区】

・古牧には３つの小学校があり、行政区が違う悩みがある。
・地域と学校がコミュニケーションを図り、地域と子供のつながりを深めていきたい。
・子供たちが地域の担い手として、社会参加し続けられるよう、人とのつながりを持つことが大切だと思う。
・集団の中の学び、地域に学校を残したいという教育委員会の資料の審議結果はもっともだと思う。

参加者⑩【松代地区】

・仕事復帰のために近所に住んでいる親に頼っているため、学童保育の充実を望む。

・不登校になって引きこもりがちになると、自己肯定感が低くなってしまう。学力ばかりに力を入れるのは心配で、少子化が進む原因にもなる。
・地域で育てたい気持ちも分かるが、地域活動が大変だと思う人もおり、つながりが希薄になっていると感じている。ゆるくつながることをしていきたい。
・子供が育つ遊び道具は、高価なものが多いため市で調えてほしい。

参加者⑪【大豆島地区】
・小規模校だから統廃合の対象になるということには反対。複式学級化せざるを得ない状況もあるが。統廃合については地域と相談しながら進めてほしい。また、大規模校にも目を向けてほしい。
・教員の質の問題が意見された。教員へのサポート・支援も大事ではないか。

参加者⑫【篠ノ井地区】
・登下校中の事故を防ぐため、保護者がパトロールをしているが、少子化と共稼ぎ家庭が多く、実施率が低い。主要な道路と細かい生活道路のパトロールを市とＰＴＡで分担することができたらいい。
・ＰＴＡ活動の中に様々な研修会などあるが、すぐに必要でないと思われる情報もある。研修等活動内容に関する検討が必要なのではないか。
・地域の取組として挨拶運動は大切。挨拶がきっかけで人とのつながりが始まる。

参加者②【地区不明】
・地域課題を知るために生徒に促されて参加した。生徒の視点から率直な意見や課題解決につながる意見が得られるのではないか。また、この会に中学生にも参加してほしいと思う。
・先生の質（学力）について、近年求められるものが多くなり、限界もあると感じている。これからの学びについては、民間や地元の人の話を聞きながら新しい学びを構築していきたい。
・部活動の中高連携により地域の競技関係者全体のボトムアップが求められている。
・今までの一方通行的な学習には限界があり、多様性への受皿とそれを許容できる学校に変わっていかなければと思う。

参加者⑬【徳間地区】
・宿題をなくした場合、個々の持っている力をどう伸ばすことができるのか。学歴で就職先が決まる現実もある。もし宿題をなくして、勉強ができる人とできない人の間で更に学力の差が開いたら、その差を埋めるために大人

はどのようにカバーするのか。
・私自身は地元でふるさと観を感じたことはなく、大きいまちに住んでいても寂しさを感じる。

参加者⑭【安茂里地区】
・宿題があったことで自主学習の仕方を覚えたので、宿題にはいい点もあると考える。
・答申のまとめに個性を伸ばす18歳とあるが、小・中学校にあった道徳の時間が高校にはないため、不思議に感じた。

参加者①【稲里地区】
・地域の子供は地域の大人が見守る役目ができるのではないか。
・公民館を子供も利用できる場にしていかないといけないと思う。

【特別委員会の今後の対応】

地域住民はじめ、保護者、教員、大学生や高校生といった様々な立場から、学校と地域とのつながり・支え合い、学校規模や宿題、増えつつある発達障害と児童虐待への対応といった課題について、多面的で貴重な御意見を頂きました。

特に、宿題の在り方については、賛否両方の意見が出されましたが、当事者である高校生からは肯定の意見が出されるなど、大いに議論が盛り上がりました。もちろん、人と関わり、地域と関わる学びの大切さについても意見が出されました。

また少子化の下、大規模校や小規模校の問題点を地域と共有し、児童・生徒の立場に立った学校の在り方を求める意見は、今後の議論の参考にしなくてはなりません。

今回の意見交換会の御意見を踏まえ、特別委員会として提言など積極的な提案につなげられるよう取り組んでまいるとともに、行政に対し、現在進めている「少子化に対応した子供にとって望ましい教育環境の在り方について」審議のまとめ説明会について、未就学児及び小・中学校保護者に対し丁寧な説明・対話をするよう求めてまいります。

中心市街地活性化と公共交通について
【まちづくり対策 特別委員会】

参 加 者：19人　　【◎委員長　〇副委員長】
出席議員：◎布目　裕喜雄、〇中野　清史、鎌倉　希旭、手塚　秀樹
勝山　秀夫、北澤　哲也、野々村　博美、小林　秀子

参加者①【芹田地区】

・この意見交換会は毎年同じことを重ねているので、全員の意見を聴いて終わりにするのではなく、中身を充実してほしい。
・権堂の大型店舗構想はどうなったのか。
・高齢化社会において、バス交通の価値、重要性は一層高まっている。

布目　裕喜雄 委員長

・まちづくり対策特別委員会は昨年から継続の委員会で、意見を蓄積して膨らませていくことが議員の責務だと思っている。
今回は初めて参加された方もいるので、問題意識、関心事の角度から一通り意見を受けたい。

参加者②【芹田地区】

・権堂の大型施設は不要、違うものにお金を使ってほしいという意見を以前にも述べた。
・公共交通については、松岡方面から来るバスに母袋から乗ると日赤に回ってしまうため、以前と経路が異なって不便になった。
・妹が若穂保科に住んでいるが、大豆島保科温泉線のルートが変わって不便でもっと大変。各路線とも乗車してみて、不便を体感してもらいたい。

参加者③【大豆島地区】

・トイーゴは１階、２階に人が入っていない。目の前にバス停があるので、冬はバスの待ち時間に使っている。もっと活用できないともったいない。
・バスについて、大豆島保科温泉線は寂しい路線だが、継続されてよかった。ただ、本数が少なく通勤には使いづらい。落合橋が混むので、定時性が確

保されず、どうしてもマイカー通勤に転換してしまう。

参加者④【吉田地区】

・地域循環バスがほしい。小型でもいいから循環バスを増やしてほしい。大病院ではなく町の医者に行きたいときに路線バスは不便。
・吉田小学校の通学路は交通量が多いので危険。

参加者⑤【古牧地区】

・権堂イーストプラザができる前に市で公募した中心市街地活性化の会合で意見を述べた。相生座周辺の開発はどうなったのか。その後の経過はどうなっているのか知りたい。
・ぐるりん号をもっといろんなところに行くコースの検討をしてほしい。

参加者⑥【松本市】

・空き家をなくしたいのか。歩いて楽しいまちづくりを考えているのか。中心市街地のことなのか、各地域のことなのか、委員会の考えの指針･説明がないと、この委員会の目的･方向において、何を考えてやっているのかが分からない。
・歩行者、自転車の安全対策を検討してほしい。
・環境が変わってきているので、便数が少ないから乗らない、乗らないから便数が減る、という負のスパイラルの中で、朝夕の通勤・通学に合わせた大きなバスの役割を果たせるところと、違ったシステムを考えなければいけないところがある。
・二つのバス事業者が運営している。バス路線全体の見直しが必要ではないか。
・新たな視点で公共交通の役割を考え直すべき。

参加者⑦【第二地区】

・自分は便利がいい場所に住んでいるが、郊外は本当に大変だと思う。
・バスに乗って残していくことが重要。利用がないと運行にならない。
・バス共通ＩＣカードくるるの活用範囲を拡大してほしい。

参加者①【芹田地区】

・中心市街地のみを取り上げるのは交通の視点から見ればナンセンス。
・中心市街地以外でも問題を抱えており、各地域でも中心になっているところがある。これから高齢化社会が更に進めば、障害のある人も増える。都電荒川線のように、バスや鉄道交通がより使いやすいよう路面電車への見直しなど、公共交通の充実を図るべき。

・高齢者、障害者の視点を持ったまちづくりをしてほしい。

参加者⑧【第三地区】

・何が大事なのか、まちづくりのテーマか絞るべき。利用者のニーズを把握し利用者が何を求めているのか検証し、マップに落とし込んではどうか。
・若い人、子供たち、高齢者、障害者など、それぞれの人によってぐるりん号の形状も、路線、バス停のありようも異なってくる。
・（長野市内の）地形を考えたまちづくりになっていない。根本的にどうしたいのかが見えない。自転車への対策も全く考えられていない。

参加者⑨【第四地区】

・意見交換会のテーマの絞り込みをしてほしい。バス交通と中心市街地活性化を一緒に議論することには無理がある。
・「中心市街地」とは？「活性化」とは？
議員の中の意見も定義付けができているのか。人をたくさん住ませることなのか、経済活性化なのか。中心市街地に住んでいる人の意見を聴いてほしい。市民が置き去りになっている。

参加者⑩【第一地区】

・中心市街地活性化プランにも目を通したが、住み良さを求めているのか、観光振興を目指しているのか、指針が見えにくい。
・スマート通勤応援のためにはバス本数の増加が必要。最終バスの終わりが早い。バスロケーションのアプリは使ってみたいのに知らなかった。もっと周知してほしい。
・サイクリングロードがない。
・交通系ＩＣカードのSuicaやPASMO等のアプリへの対応が不十分ではないか。

参加者⑪【川中島地区】

・昨年公共施設マネジメントの意見交換会に参加したがテーマがバラバラだった。
・バスロケーションを知らない。もっと周知してほしい。

参加者⑫【川中島地区】

・バスだけでなく電車を利用する方もいるので、電車でもバスでも使える交通系ＩＣカードを買物にも使えるようにしてほしい。
・バスロケーションの周知はもちろん、誰でも見られる場所にあったらいいと思う。
・善光寺周辺に駐車場が少ない。

参加者⑬【芹田地区】

・スマート通勤応援で利用者が増えるのはいいが、現時点で本数が足りないバス路線がたくさんあるのに、病院に行くために使いたい人やいつも使っている人が使えなくなる状況ができてしまうことにならないか心配している。

参加者⑭【中野市】

・「中心市街地活性化と公共交通について」というテーマが大きすぎる。
・権堂は人通りが少なくシャッター街になっている。東京都中野区では、空き家を活用し美術品を展示し人を呼び込むことで再生したという事例があり、資料館に入りきらない資料がたくさんあるとのこと、権堂でもこのような活用を行ったらどうか。

参加者⑮【古牧地区】

・テーマがバラエティに富んでいて選びにくい。
・通勤や買物に行きたくてもバスがない時間がある。20分に１回など時間が読みやすいほうが使いやすい。
・バス共通ＩＣカードくるるが使いにくい。利用範囲や決済方法（クレジット機能）の拡大を。
・バスロケーションはバス停に表示されるものがいい。
・自転車レーンの必要性。中心市街地は歩いて楽しめる場所にしてほしい。

参加者⑯【第四地区】

・中心市街地が寂しい。松本はコンパクトに歩いていけるようにそろっているが、長野は歩いていけない。公共施設が商店街にあっても人は集まらないのではないか。大きな視点で活性化を見てほしい。
・Suicaが使えないのは不便。バスロケーションのアプリが使いづらい。

参加者⑰【地区不明】

・補助金は企業の維持のためではなく住民の足の確保のため。バス事業者が経営努力の中でも維持できなくなる場合もある。15分に１本あるのが理想。便利な路線はより便利にしていきたいが、投資ができないので難しい面がある。不採算路線の見直しが必要。

参加者⑱【三輪地区】

・車の利用を控えるなど、利便を追求する前に自分たちも我慢が必要なのではないか。

参加者⑲【更北地区】

・中心市街地の空洞化で人が郊外に出てしまう。公共施設も商業施設も、車を使えば用が済むので中心市街地に行く必要がなくなってしまう。

・昭和通りに魅力がないので、県庁から長野大通りの間のエリアの再開発が必要なのではないかと思う。都市機能を中心市街地にもう一度もってきたらいいのでは。

参加者②【芹田地区】

・バスは高齢者に不可欠。バスの便が良くないと高齢者は痛いのを我慢しなければならない。

参加者③【大豆島地区】

・資料に事業の名前が書いてあっても何をやっているのか分からない。アウトラインを簡単に示した資料を充実してほしい。

布目　裕喜雄 委員長

・まちづくりを前提にしているが、交通の視点が不可欠としてテーマを決定した。分かりやすい委員会のテーマを設定していくため、御意見を受け止めていきたい。

参加者①【芹田地区】

・高齢者には公共交通は不可欠。公共交通で行きたいところに行ける利便性が必要。バリアフリーの観点から誰にでも住み良いまちづくりをしてほしい。

布目　裕喜雄 委員長

・交通系ＩＣカードの現状及び自転車レーンの現状についての説明

・人口減少、超高齢化による公共交通の衰退

・交通系ＩＣカードは２in１カードの開発が進んでいる。

・自転車レーンについて、議会でも議論はしてきている。３月に自転車の利活用に関する県の条例が制定された。自転車を安全に、そしてマナーを守ることを目的としているが、利活用についても目的としている。
長野市としても、自転車の安全走行に関して何らかの検討は必要と考える。

【特別委員会の今後の対応】

19人の参加者から多くの貴重な御意見を頂きました。そのうち、５人の学生に参加していただき、まちづくりに対する若い世代の関心の高さを伺うことができました。

テーマ設定について、「中心市街地の活性化」と「公共交通」の２つを一緒に議論することは難しいという御意見を複数頂いたことから、次回の開催に当たってはテーマを絞った内容で提起できるよう検討したいと考えます。

中心市街地の活性化では、権堂地区の再生、トイーゴ活用の課題などのほか、そもそも中心市街地に求められる活性化とは何なのかという根本的な問題提起も頂きました。

公共交通をめぐる問題では、少子高齢化が進む中で中心市街地循環バスぐるりん号を含め利便性の高い路線バス網を求める意見や、導入されたバスロケーションシステムの周知や使いやすさを求める意見をはじめ、Suicaなど交通系ＩＣカードの導入、自転車道の整備、バリアフリーのまちづくりなど提案を含め多彩な御意見を頂きました。

中心市街地と郊外、中山間地域で均衡のとれたまちをつくるためには、市民の皆さんが住んで良かった、住んでみたいと思えるまちづくりを目指すことが重要です。本委員会として、頂いた御意見を踏まえ、市政に反映していくとともに、引き続き調査・研究を継続していきます。

なお、こうした意見交換会で頂いた御意見を蓄積して膨らませていくことが議員の責務であることから、前回の意見交換会での発言要旨を配布するなどの配慮が必要であったと感じています。今後、対応を検討したいと思います。

農林業の担い手の確保について
【農林業振興対策 特別委員会】

参 加 者：17人　　【◎委員長　〇副委員長】
出席議員：◎塩入　学、〇滝沢　真一、小林　義直、市川　和彦
松井　英雄、小泉　栄正、佐藤　久美子

参加者①【松代地区】
・中山間地域の指定の拡大はどう考えているのか。

小泉　栄正 議員
・行政側として拡大するのかどうかは議会としては聴いていない。

参加者①【松代地区】
・地形が似ているのに中山間地域に指定されている所とされていない所では補助金等に不公平があるのではないか。議会として今後中山間地域を広げていく考えはどうか。

塩入　学 委員長
・皆さんの御意見を頂いて十分に精査し研究していく。

参加者①【松代地区】
・松代町東条はあんずの産地だが高齢化が問題となっており、年々地域のあんずの木も切られ危機的な状況におかれている。定年退職した人たちが農業に携わるようになれば耕作放棄地も減少するのではないか。

参加者②【朝陽地区】
・長野市の取組に担い手への農地の集約・集積が挙げられているが、現場で農業をやっていて、農地も農業者も減っているが一人当たりの耕作面積は増えていないと感じている。担い手への集約ではなく農地そのものの集約・集積が必要だと思う。

参加者③【七二会地区】
・さいたま市から移住し、昨年４月に七二会地区で新規就農した。農地は農

業公社に探してもらい、住宅は空き家バンクを利用したが、住宅と農地が離れていると移動に時間がかかるので、県外から新規就農する場合、住宅と農地をセットで紹介してくれる仕組みを作ってほしい。

参加者④【小田切地区】

・戦後植栽された木が成熟期を迎えている。公共施設の建築に積極的に地元の木を使ってもらいたい。地域産材を使うとコストが高いと言われるが、地域産材を使うことで山が再生されて、崩壊を防げて、きれいな水が出て、きれいな空気を作ると思う。

参加者⑤【古里地区】

・信濃町は地元の工務店を利用し、町産材で住宅を建てると補助を出している。長野市では、同じような取組は考えているのか。

塩入　学 委員長

・いろんな機会にお聴きしている。具体的な政策になるように提言していく。

参加者⑥【大豆島地区】

・須坂市や小布施町では、果樹関係で里親を紹介したり、県内外から若い人を集め、ゆくゆくは担い手になってもらうよう取り組んでいる。
・農地の集約が進み、大型機械で耕作できるような取組があるといいと思う。

塩入　学 委員長

・担い手の育成は十分とは言えないが、市では市農業研修センターを設置し応援している。

参加者⑦【大豆島地区】

・定年退職後、信濃町で８反歩ほどトウモロコシを専門に作っている。片道40分ぐらいかかるが、農業が好きなので体が続く限りやっていきたい。
しかし、農業は自然の影響を非常に受けやすく、農機具や農薬などお金がかかるため、収益との折り合いがつかない。何か良い方法があれば教えほしい。

参加者⑧【真島地区】

・農業の現場は高齢化が進み厳しい状況であるが、あと５年後、10年後にも産地を維持していけるのかが当面の課題と思っている。親元就農で65歳の定年後に入ると長くても10年ぐらいしかできない。長野市が音頭を取って県内外から若い新規就農者を呼び込んでもらいたい。

参加者⑨【川中島地区】

・農家の担い手の結婚相手がいない。お嫁さんを探してあげてお嫁さんが、農業ができる体制を作ったら担い手も増えるのではないか。

・川中島地区は、１軒１軒で１～２反歩の土地を持っている人が多いので、田んぼに入る道（馬入れ場）がない。今の若い人は他人の農地を通ることに慣れていないので、小規模の農地の集約を行政で考えてほしい。

参加者⑩【長沼地区】

・担い手の確保には、新規就農者と若手の就農者が増えないといけない。新品種栽培が必要。りんごは、新わい化栽培が主流になってきているが、トレリス（格子状の支柱）は新品種を植えるのに１反歩200万円かかる。市の補助金の予算は全体で120万円のため、新規就農者、若手就農者の意欲が削がれる。新品種を開拓していけるように予算を確保してほしい。

参加者⑪【朝陽地区】

・いかに耕作放棄地を広げないよう地域全体でやっていくか。稲作は今の米価が維持される限りやってくれる人はいるが、野菜作りは誰もやってくれない。若槻地区では「コミわかグリーンクラブ」を168区画でやっている。地域を挙げて市民農園や市民菜園に取り組んだらどうか。議会も住民自治協議会と連携して中山間地域と市街地をつなげられないか懇談すべきと思う。

参加者⑫【中条地区】

・親が中条地区に住んでおり、りんご栽培をしている。時々帰ってきて手伝っているが、りんご栽培だけで生活できるか不安があり、夫の退職後に戻ってくるか迷っている。友達は横浜市から小川村に移り住んだが、地域に定着できずに戻ってしまった。地域に定着するのは大変だと思う。

参加者⑬【若穂地区】

・親元就農支援事業は大変好評だったが、認定農業者の農業機械導入の支援は、まだ５月なのに既に枠が一杯で来年にしてくれと言われた。財政の問題もあると思うが、支援事業について議会としても補正予算を組むなど、信念を持って取り組んでほしい。

・新規就農者の面倒を見ているが、細かい農業相談をする場合、本庁に行かなければならない。一定の農家戸数のある地区には、支所に農業相談窓口を設けて、ある程度の対応をしてもらいたい。

参加者⑭【第四地区】

・自分は農林業の学校に進学したが、中学生の頃、農林業がどんなことをしているか知らない友達が多かった。農林業自体の知名度が低いと思う。５月初めに長野地区森林（もり）と緑の祭典に参加したが、あまり知られていなかったので、売り込み方が大事と感じている。

参加者⑮【篠ノ井地区】

・市内の農業者などを取材して２年間で150人ぐらいの人から話を聴いた。首都圏でＩＣＴ関係等のストレスの多い仕事をしている人が、人間的な生き方を求めて農業にたどり着くケースが多いと感じている。人生観として農業、農的暮らしをしてみたい方が増えている。家と畑が近いなど、きめ細かい対応をしないとせっかく長野市に来たい人をつかみ損ねる。

・毎週火曜日にトイーゴ前で中山間地域中心の朝市をやっている。規格外の品物が多いが、中山間地域の暮らしを地域全体で応援していく姿勢がないと農業を止めてしまう。

参加者①【松代地区】

・農業だけでなく林業も深刻な状況で、とにかく木材が売れない。新築住宅は大手メーカーが多く、洋風住宅は木材の使用量が少ない。国産材を利用した方が、坪単価が安いといった制度を作るなど政策的転換を望む。

参加者④【小田切地区】

・同じ木材でも地域材・市産材を使ってもらいたい。そうすれば林業人口も戻ってくる。コスト高が本当か分析してほしい。

塩入　学 委員長

・市産材を使わないのは業者の判断なのか。補助金が出れば変わってくるのか。

参加者③【小田切地区】

・長野市で公共施設を建てる場合には、私たちの地域材、市産材を使ってくださいとお願いするが、県産材が採用されてしまう。

参加者①【松代地区】

・松代地区の小学校は、校舎を松代町西条の木材で建てた。公共施設はなるべく地元の木材で建てれば林業関係者だってやる気になると思う。

参加者③【小田切地区】

・鬼無里地区の小学校も木造で建てて非常に喜ばれた。公共施設は長野市産材、地域材の指定をしてほしい。

小林　義直 議員

・担当課で予算を見ながら実施している中で、地域産材が選ばれない結果になっているが、それが全てやむを得ないものだとは思っていない。私的な意見だが、地域産材を使えば山を維持でき、水も良くなる。トータル的に長野市の将来への投資だというスタンスに立たなければいけない。

佐藤　久美子 議員

・私も支所に農業相談窓口を設けてほしいと感じている。長野市議会は、独自に議会の提案で農業振興条例を作ったことがある。まだまだ不十分ではあるが、皆さんの声を聴きながら制度を作っているという確信を持っている。

参加者⑧【真島地区】

・小布施町では高齢でりんご栽培が難しくなっても、栗という一大産業があるので栗を植えれば耕作放棄にならない。長野市も特産品をどうするか、観光と農業を含めてくるみなどの品目選定をできないか。
・長野市農業研修センターは野菜中心だが果樹もやってもらいたい。同センターのある地域はぶどうの産地なので、果樹振興で同センターが生かせるように考えてほしい。

参加者②【朝陽地区】

・長野市に来て就農した人には様々な支援があるが、長野市を選ぶまでの案内をもっとアピールすべきと思う。担い手募集の取組も、総合的で誰に何を伝えたいか不明であり、どういう人に来てもらい、何をしてほしいのか具体的に伝えるべきだと思う。

参加者⑮【篠ノ井地区】

・生坂村ではぶどうを作る人を募集しており、新規就農には住宅や農地を確保して受け入れている。新規就農者を呼び込むには、「何作っていいのか分からないけど来ませんか？」では、そんな不安定なところに人は来ない

ので、地域ごとの基幹作物などを考える必要がある。

参加者①【松代地区】

・松代町東条はあんずの産地だが、摘花や収穫の人手不足が深刻となっている。摘花や収穫に人手を振り分けられる政策が必要と思う。

市川　和彦 議員

・中山間地域だけでなく平場にも農業後継者がいない。皆さんからあまり声が出なかったがコンクリート農業、農業工場、ＡＩ農業に対する御意見はあるか。

参加者③【七二会地区】

・植物工場のような技術も必要だと思うが、導入にはコストが掛かるのではないか。それが一番のハードルだと思う。ＡＩ農業もトラクターの無人化は便利だと思うが、やはり費用が掛かる。

参加者⑫【中条地区】

・温暖化が進んでりんご栽培もこの30年で変化している。環境問題は個々ではなく皆で考えていかないと、これからのりんご栽培は大丈夫なのかと心配になる。

【特別委員会の今後の対応】

農業分野では高齢化の深刻な実態とともに、「住居と農地をセットで紹介してほしい。」など新規就農者への細やかな対応、農地の集約化の必要性、農業機械や新品種に対する補助金の拡充、相談窓口の充実などの課題が意見として寄せられました。

新規就農者として他県から長野市に移り住んできた方からの実体験、農業者の立場から見た補助金の実態など、寄せられた意見はどれも実際の現場での具体的な課題であり、農業の新たな担い手の確保につながる問題です。一つ一つの課題解決のため調査・研究を進めてまいりたいと考えます。

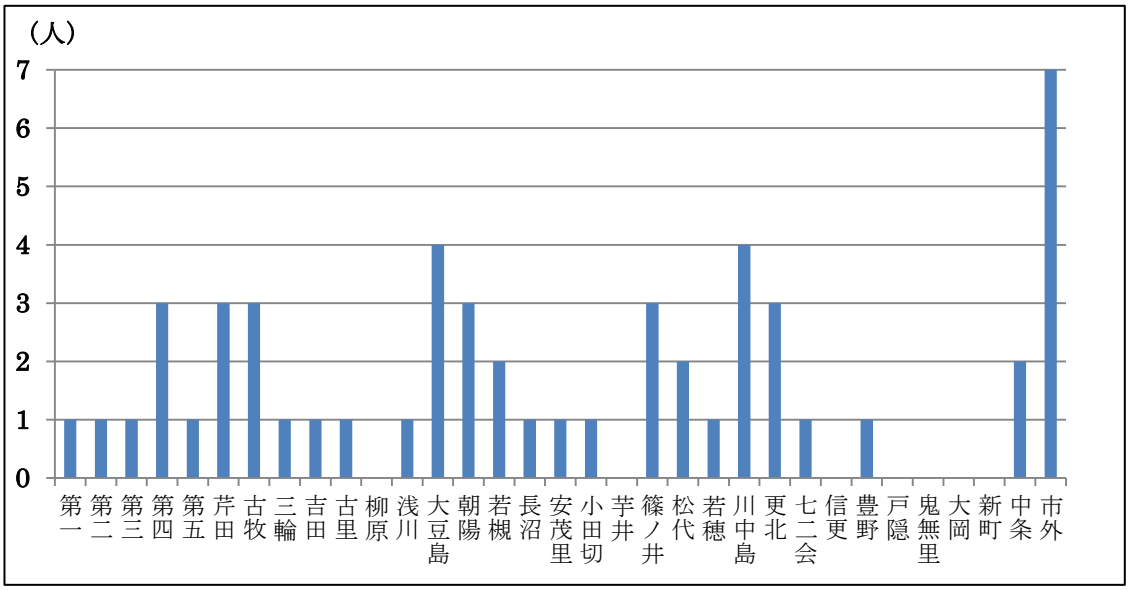
林業分野では市産材への補助や公共施設建設への活用を求める意見が寄せられました。市産材の活用は林業者の収入確保だけにとどまらず、森林整備、林業人口の増加など長野市全体の林業の活性化にまでつながると受け止めました。

市産材を活用した場合のコストパフォーマンス、森林環境譲与税の活用なども含め、調査・研究を進めてまいりたいと考えます。

Ⅲ　参加者アンケートの結果

◆57人の方に参加していただき、53人の方にアンケートに御協力いただきました。

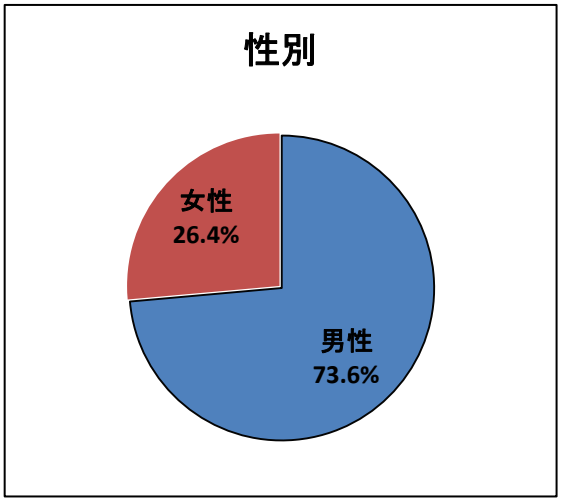
◆問１：お住まいの地区

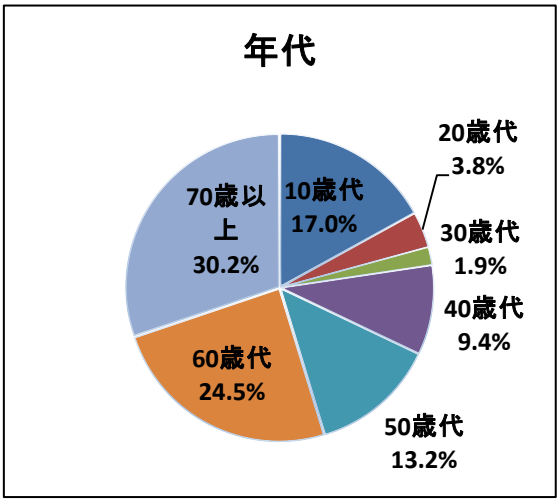


市外からの参加者も多く、意見交換会への関心の高さがうかがえます。

◆問２・問３：男女別・年代別

（※回答の構成比は小数第２位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない場合があります。）

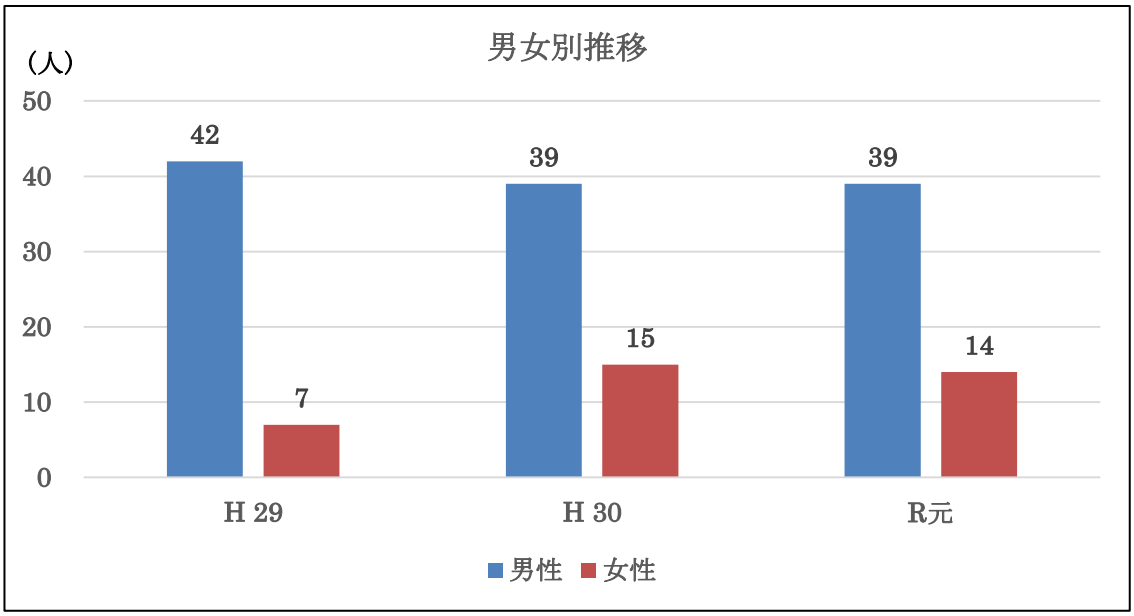




女性の参加が昨年は27.6%、今年もほぼ同様の26.4%でした。女性の参加が高まることが期待されます。年代別では、60代・70代の参加が半数以上を占めています。10代９人、20代２人と学生の参加もありました。30代、40代の参加が増えるように周知の工夫が求められます。

◆【参考】問２：男女の別過去３年間の推移

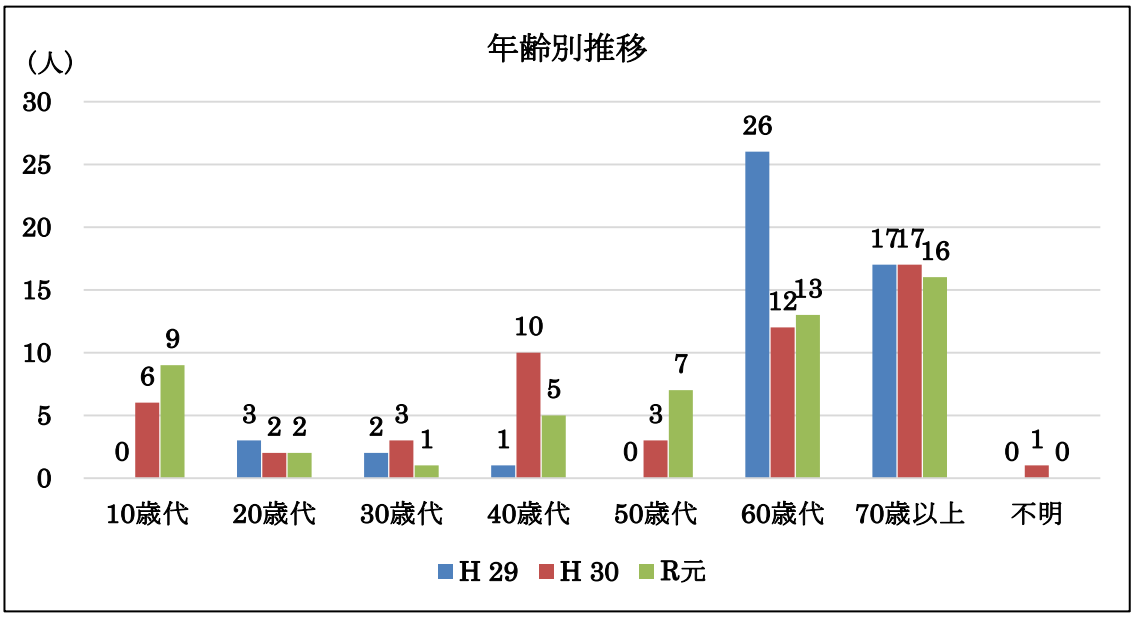
（※値はアンケート回答者数のため、参加者数と一致しない場合があります。）



女性の参加者は、平成29年度の７人（14.2%）から今年は約２倍の14人（26.4%）に増加しています。

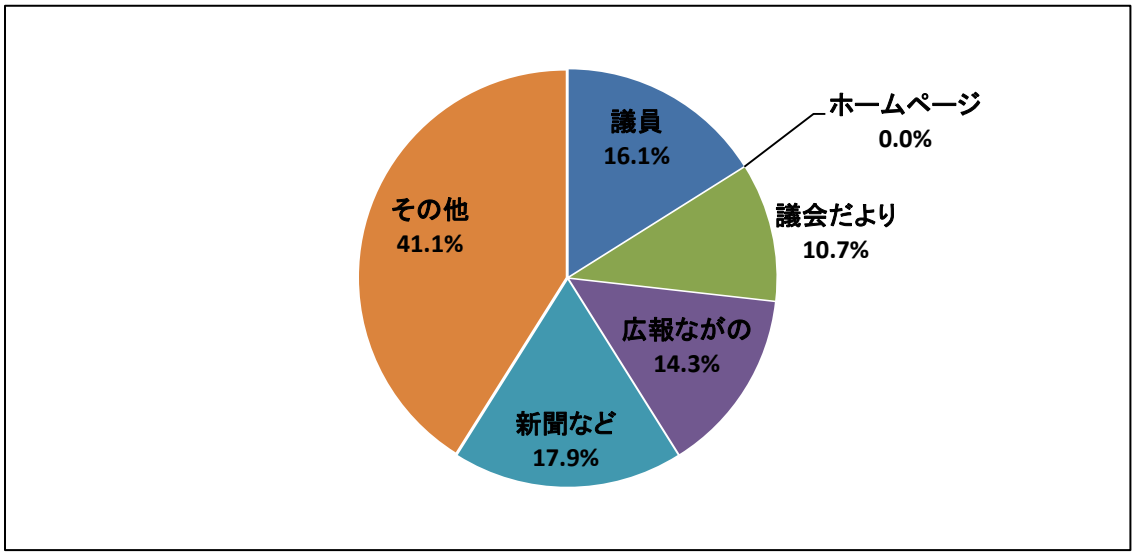
◆【参考】問３：年代別の過去３年間の推移

（※値はアンケート回答者数のため、参加者数と一致しない場合があります。）



10歳代及び50歳代の参加者は年々増えていますが、20歳代から30歳代の参加者は３人以下で他の年代と比べて少ない状況となっています。70歳以上の参加者には一定の参加をいただいています。

◆問４：意見交換会の開催情報は何からお知りになりましたか。

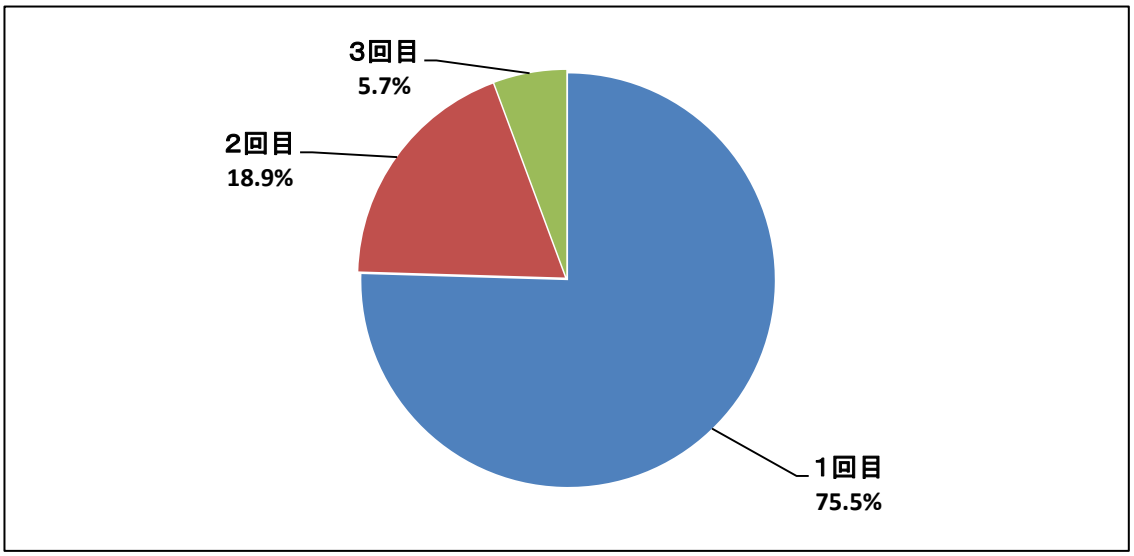


「市議会だより」と「広報ながの」を合わせて25.0%で、次いで「新聞など」、「議員」が多くなっています。

大学の先生からの声掛けや、高校で配布されたチラシを見て積極的に参加したという高校生もいました。

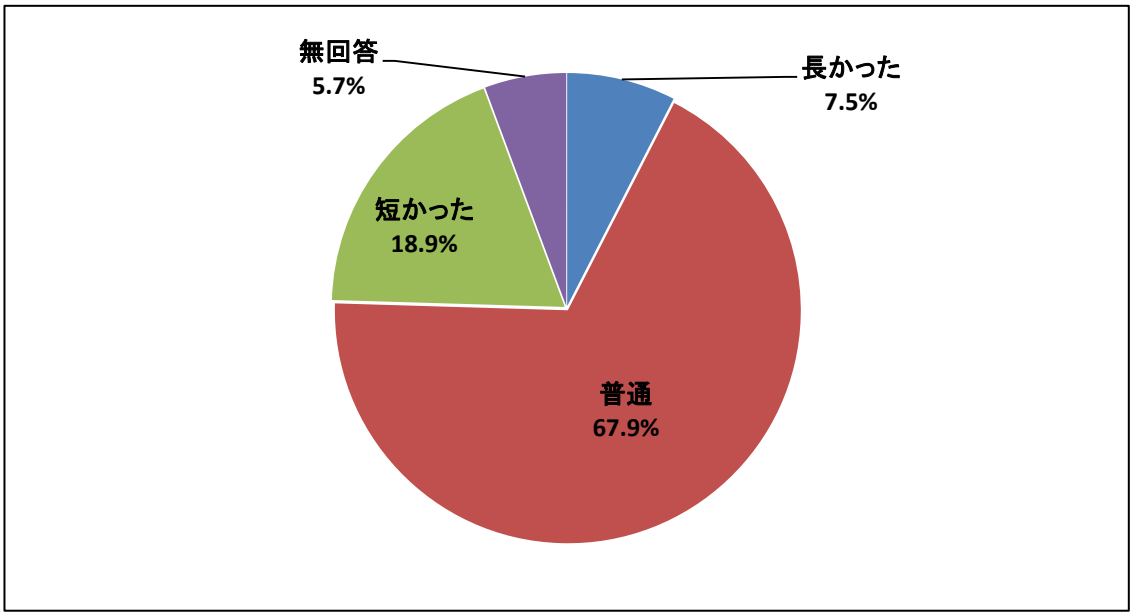
意見交換会へのお誘いをしていただいた皆様に感謝します。

◆問５：「市民と議会の意見交換会」は今回で３回目の開催となりますが、何回目の参加になりますか。



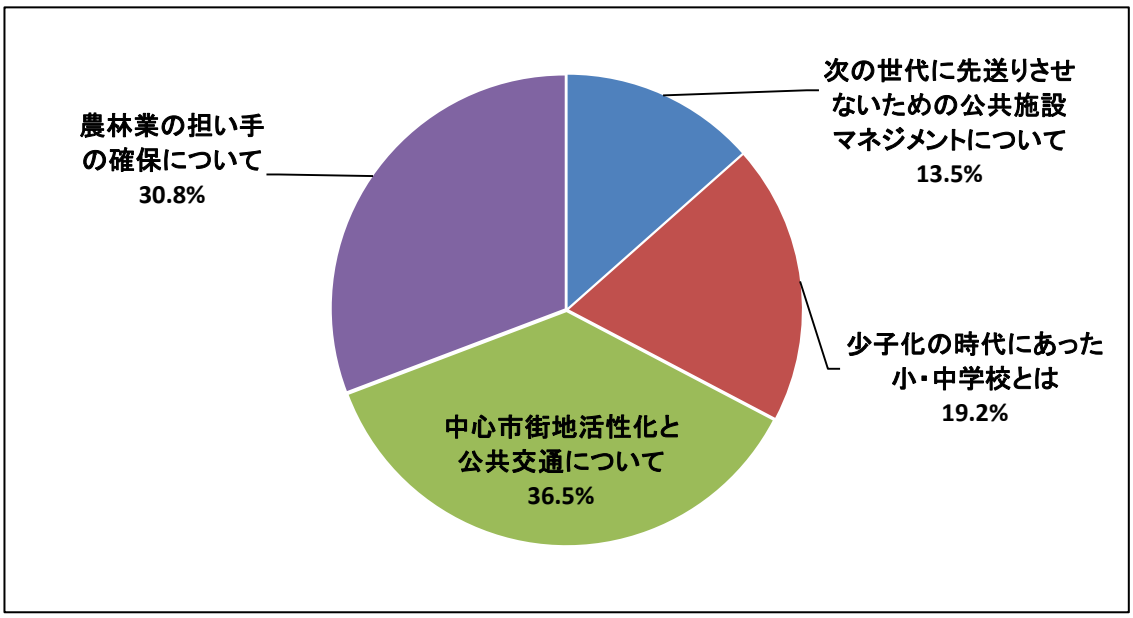
初めて参加したという方が、昨年の90.7%から75.5%に下がりましたが、今年２回目という方が、昨年の5.6%から18.9%に増加しています。

◆問６：意見交換会の時間はいかがでしたか。



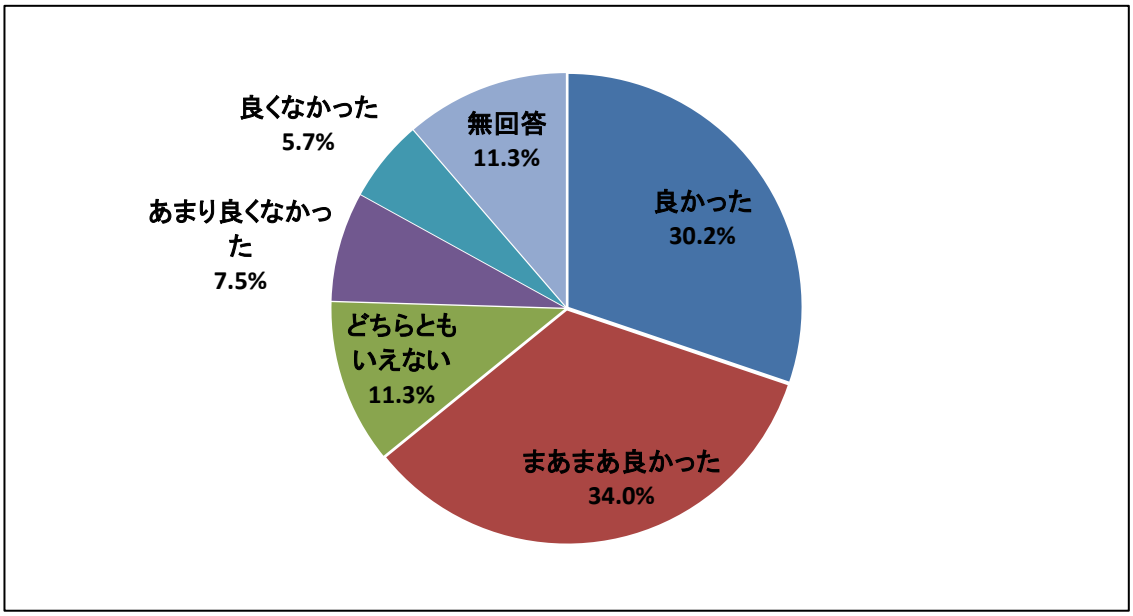
おおむね時間は良かったと感じた方がほとんどでしたが、「短かった」という方も18.9%いたため、進め方を検討することも必要と思われます。

◆問７：意見交換会はどのテーマで参加しましたか。



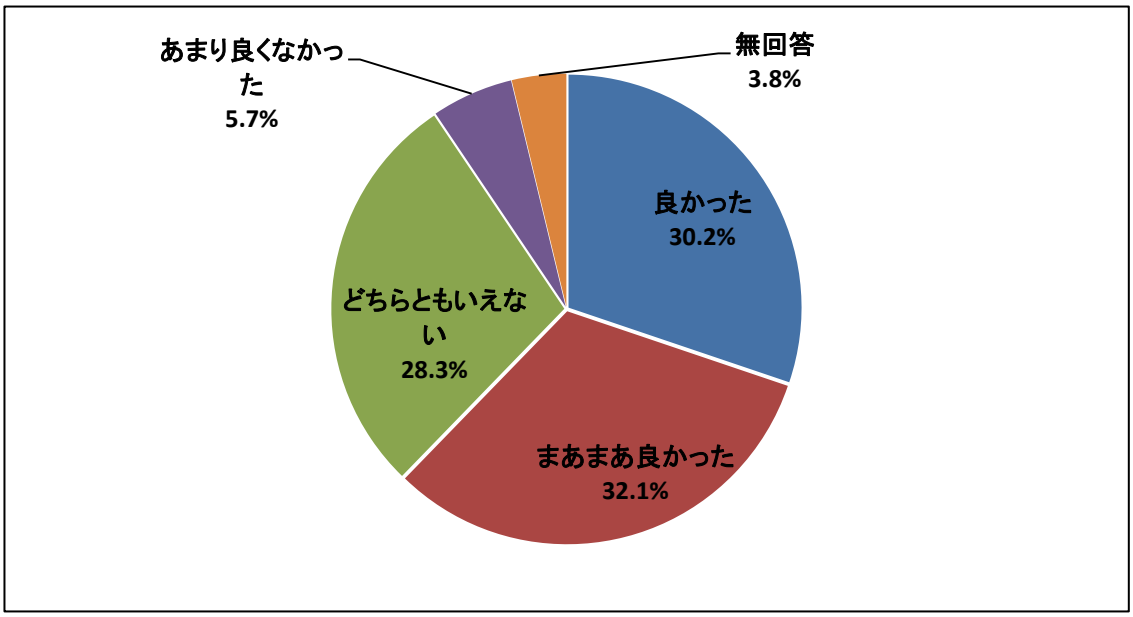
「中心市街地活性化と公共交通について」と「農林業の担い手の確保について」に30%を超える参加があり、テーマによって偏りがみられました。

◆問８：意見交換会の「テーマの選定について」はいかがでしたか。



64.2%の方が、「良かった」「まあまあ良かった」とおおむね良い評価をしていただきました。しかし、「テーマを絞ってほしい」とか「範囲が広すぎます」などの要望もあり、今後のテーマの設定や運営の仕方に課題が残りました。

◆問９：今回の意見交換会はいかがでしたでしょうか。



「良かった」「まあまあ良かった」を合わせると62.3%となりました。「あまり良くなかった」が5.7%ありましたが、おおむね良い評価をしていただきました。しかし、どちらともいえないという感想が30%近くあり、テーマ・内容・運営の仕方を検討することが求められていると思われます。

◆問10：今後、意見交換会に望むこと、開催・運営方法等について、御意見がありましたらお書きください。

・多くの方の意見が聞けて良かった。幅広く認識することができて良かった。中に参考になる意見もあり、今後に生かしたい。
・運営は難しいということを実感しました。
・今回自分の勉強不足がよく分かった。授業を通して自分に身につけていきたい。高校生なども参加できる環境などどうでしょうか。
・良い機会でした。ありがとうございました。

・進め方について検討していただきたい。
・時間を長くしたらどうでしょうか。
・座談会（対話）の様な形式の方が、意見が出しやすい。
・人数が６人だったので、１人の意見を言う時間が長かった。
・年１回でなく２・３回やってほしい。
・各支所で開催できると良いと思います。地元と密着した行政が大切だ。
・もっとこのような会を何回も開いた方がいいと感じた。

・テーマは絞り込んでいただいた方が深い議論ができたと思う。
・テーマをもっと絞るべきではないか。このままでは、開催する意味がない。次回の参加は？にする。
・いつも同じような意見の繰り返しになっているのでテーマをもう少し絞って実施してみたらいかがでしょう。
・テーマが多すぎるため、もう少しテーマを分けてほしいです。また、年１回の開催のため、意見がうまくまとまらない気がします。もっと重大に考えているならば、意見交換会の回数を多くとるなどした方がいいと思いました。
・市民の意見を聴く前にどのような意図があってテーマについて話し合うのかを述べてから、話合いに進むべきだと思った。特に交通の便に関しては、多くの意見が出ていたので、別のテーマにした方が良いと思った。昨年よ

りその場で回答する時間が多かったので続けてほしい。
・テーマ分け、また日程を分けるか、意見交換会を２部制にして１人が２つのテーマについて話し合えるような形にしていただきたい。前半４つ、後半４つのテーマに設置することでテーマをより細かく分けられる。
また開催期間を年１回ではなくもう少し増やしてほしい。話の脱線が大きすぎると思います。

・議論が混在していて、何について話せばいいのか、よく分からないことが多く、うまく意見が言えなかったから、議題を明確にしてほしい。最初にテーマを設定してから自己紹介をした方がみなさん簡潔に最初の２分意見を言えるのではないかと思う。資料をもう少し増やした方がいいのでは。時間通りに終わってほしい。時間ギリギリになってみんなワーワー言い始めて延びてしまうと思う。
・参加者からの一方通行になってしまって、議論するところまでいかなかったことは残念。

・議員の個人の見解もお聞きしたかった。意見交換会なのだから相互の情報交換をお願いしたい。
・各議員の見解もお聞きしたかった。
・意見交換会なので議員からも出された意見について自分はこう思うという意見が出て交換会になると思うのでお願いしたい。出された意見について回答できるものはホームページ等で回答したり、議会での提案に、こんなふうにして結び付けるとかの経過をホームページでの報告が必要である。

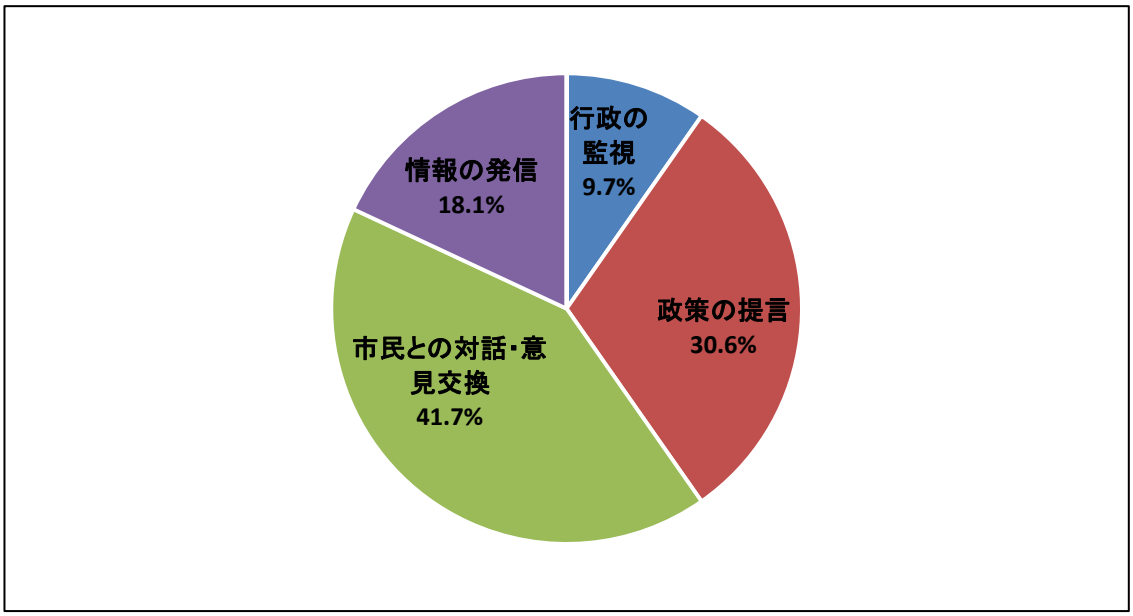
・市民の対話、意見交換会ができていない。議員の意見を前面に出してほしい。
・特別委員会の皆様が各地域に出向き、生の声を聴く必要があると思います。議会として今までこのような取組をしてきたが、市民としてどう考えるか？また評価はどうなのなのか聴き取る。
・テーマに沿って、発言をしてほしいと思いました。個人の打ち明け話をしても分からない場合が多いと思います。

・少し堅苦しい雰囲気があってやりづらかった。
・議員との意見交換会ができていない。
・市の人口の割に参加者が少ない。ＰＲ不足、もしくは開催時期、時間の検討が必要。

・今までの経過があれば提示してほしい。市としての方向性が見えない。
・その後の様子・動きまで知りたいです。
・毎年開催していることを知りませんでした。ただ意見交換だけではなく、その後どのように検討してもらったのか是非議員任期の間にどうのこうのではなく市民に周知してほしい。私たちは党のどの議員が何かをよくしてくれたかではなく私たちの生活が良くなればいいのです。
・意見はなるべく多く反映していただきたい。次の意欲につながると思います。

◆問11：今後、市議会に期待することはどのようなことでしょうか。

（複数回答可）



「市民との対話・意見交換」が41.7％と圧倒的に多く、今後も日常的に「対話・意見交換」の在り方を検討し工夫していることが求められています。
また、「政策の提言」の期待が大きいことがうかがわれます。

御協力ありがとうございました。